

天 界 新 知 識

ヘルクレス座 TT 星の蝕變要素

ヘルクレス座 TT 星は、B. D. +17°3117 であつて、位置は $\alpha 16^{\text{h}}49.9$, $\delta +17^{\circ}01'.0$ (1900.0) 又は $\alpha 16^{\text{h}}47^{\text{m}}54^{\text{s}}$, $\delta +17^{\circ}04'.6$ (1855.0) であり、スペクトルは A5 型である。此の星は佛國リヨン市の Luizet 氏が1907年に變星であることを發見し、176.1907 と假稱されたこともある。爾來、Luizet, Kordylewski, McLaughlin, Lause 諸氏の觀測が發表された。始め、1909年にリュイゼ氏はアルゴル型の變星と考へたが、マクラフリン氏は1929年に之れを琴 β 型の變星と認めた。近年、此の星は米國フラワ天文臺の R. B. Baldwin 氏が48種望遠鏡(口径を25糎にしぼる)に楔式光度計(北極星野で定尺したもの)を用ひ、B. D. +17°3118星を比較として觀測した結果の綜合研究を發表した。之れによると、變光要素は [A. J. 48, i]

主要極小期日 = J. D. 2425433.6286 + 0.9120862 × E		
極大光度 9.72^{m}	第一極小 10.41^{m}	第二極小 9.91^{m}
蝕の期間 0.2387^{h}	金環位相の期間 0.0309^{h}	
主星の質星 $3.31 \times \odot$	伴星の質星 $0.95 \times \odot$	視差 $0''.0012$

テクタイト岩は月の片割れ!

黒曜石に似た一種の天然ガラス式の岩石にテクタイト Tektite といふものがある。蘭領インドのピリトン島や、濠洲のギクトリヤ洲やタスマニヤ島、歐洲ポヘミヤ等の、地表や、川底等に産し、直徑5糎以内の楕圓體又は圓盤状のもので、色は綠色から暗綠色まで種々あり、表面に一帯に滑らかだが、著しい凹み等がある。其の産地が全く火山に無關係で、従つて其の起原は全く不明である。學者の中には、之れを、隕星の片割れであると考へてゐる人も多い。最近米國ミシガン大學天文臺のルーフス C. W. Rufus 博士(日本にも來たことがあり、朝鮮天文學史の權威者である。天界第172號第361頁参照)は、このテクタイトが主として太平洋の沿岸地方から産出する事實に鑑み、數十年前、ジョージ・ダイゲン氏が“月は地球の太平洋の部分が分裂したものである”といふ説を提唱したことと思ひ合はせて、このテクタイトは、月となつて地球から離れ去つた物質の一部が落ちこぼれて尙ほ地球に引き戻され、こんな特殊な形になつたのであるといふ説を近頃發表した。